

高松医療センター

Medical News

基本理念

私達は、患者様とその御家族の立場に立った医療の推進に努めます

新年のご挨拶

あけましておめでとうございます。

旧年中は一方ならぬご厚情を頂き、誠に有難うございました。令和2年を迎え、新年のご挨拶をさせていただくと共に、当院のこれまでの取り組みと、今後向かう方向性について、述べさせていただきます。

昨年9月の厚生労働省の発表において、地域医療構想における病院の再編・統合を考える上での、再検証要請対象医療機関のひとつとして名前のあがった当院ですが、その後の会議等において、当院の進めている病院機能の転換や改革について、繰り返し説明を行なってきたところです。

もとより当院は、香川県における結核の最終拠点病院、神経筋難病の領域別拠点病院として政策医療を担っており、これに慢性肺疾患や呼吸器感染症等を中心とした呼吸器疾患、糖尿病・高血圧・高脂血症などの生活習慣病を中心とした一般内科系の診療、整形外科領域のリハビリテーション、CT・MRI・超音波などの画像検査や消化管内視鏡検査、人間ドックなどに注力してまいりました。

さらに当院では、平成26年度から段階的に急性期病床を障害病床へ転換、平成29年度末にはDPCを自主退出し、結核ユニット20床を除いた残り220床をすべて障害病床に切り替えて、急性期の病床を回復期機能を持つ病床へ

と機能転換を図りました。そうして、亜急性期、急性期後から回復期、慢性期までを広くカバーできる医療を目指すといった、当院独自の改革を進めてまいりました。

厚生労働省は平成29年度病床機能報告に基づいて、急性期病床における、がん・心筋梗塞等の心血管疾患・脳卒中・救急医療・小児医療・周産期医療の6分野について実績を検証し、再編・統合を考えた訳ですが、先に述べましたように、当院は地域医療構想の方向性を鑑みて、自ら進んで改革に取り組んでおり、厚生労働省に名指しされる1年以上も前に、病床機能を大きく転換しているということ、関係医療機関の皆様にも広く知っていただきたいと思えます。

日本は急激な少子高齢化が進み、すでに毎年50万人ずつ人口が減少しているという実態があります。今後の人口減に伴い、いずれの医療機関も病床数削減が求められると予想されますが、当院はこれまでに転換してきた病床機能を生かして、現状の病院機能を発展させながら、徐々に人口減に対応していけば乗り越えられると考えています。

県下の医療機関の皆様には、当院の果たすべき役割や診療機能と、その現状をご理解いただくとともに、引き続きご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



当院から高松市内の遠望



院長 細川 等

謹賀新年

皆様、明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりありがとうございました。当院は地域医療構想に関する不本意な報道で世間をお騒がせいたしました。院内は平成30年度に引き続き改革！改革！で、私にとってはまさに無我夢中、あつという間の1年でした。

昨年4月に一個病棟をDPC病棟から障害病棟に機能転換し、その結果、全病棟で在院日数にとらわれず必要十分な医療をおこなえる環境が整い、急性期病院と地域をつなぐ回復期病棟としての役割を果たすことが可能となりました。神経内科部門でも、今まで制限せざるを得なかった急性期治療後のリハビリテーション・療養環境整備のための入院やレスパイト入院において、入院期間・病床数を増やすことが可能となりました。

その他の改革としては、筋ジストロフィー患者の受け入れを開始し医療型障害児入所施設の指定を受けることで、今まで「神経難病」に特化していた難病医療を「神経筋難病」に広げることができました。また、医療型短期入所サービスを始めたことで、人工呼吸装着等重症の神経筋難病患者さんのレスパイト環境が改善されました。

今年も、目先の利益にとらわれず、患者さんや地域に求められる病院を目指して変化を続けていきたいと考えております。皆様にはご指導・ご助力のほど、よろしくお願い申し上げます。



市原統括診療部長
神経内科

新年あけましておめでとうございます。旧年中は格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございました。診療部長（呼吸器内科）として一言ご挨拶申し上げます。

昨年、厚生労働省より全国の公立病院を対象に、「再編統合について特に議論が必要」な病院名リストが公表されました。香川県では4病院がリストに挙げられており、当院もその一つとなりました。そのことで患者様のみならず、連携している医療機関の皆様にもご心配をおかけいたしました。当院は数年前より急性期病床を障害病床に変更するなど、当院の役割をふまえた方向転換を行っております。リストの根拠となった診療疾患の統計は方向転換前のもので、現状は違ってきていると考えます。今後も当院が進むべき道を模索して、努力していく所存です。呼吸器疾患に関しては、結核・抗酸菌感染症のみならず肺炎や慢性呼吸不全、間質性肺炎などびまん性肺疾患、気管支喘息やCOPDなど閉塞性肺疾患、睡眠時無呼吸症候群、胸部異常陰影の精査など一般呼吸器内科疾患に関しても変わらず診療を行っておりますので、ご紹介いただければと思います。皆様方にはなお一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、本年もよろしくお願いいたします。



東條診療部長
呼吸器内科

新年明けましておめでとうございます。令和になって初の新年を迎え、「子年」という再び新しい十二支のサイクルがスタートしました。心浮き立つオリンピックももうすぐそこです。当院も細川院長のリーダーシップのもと「心豊か、そして持続可能な病院」をテーマに、様々な課題にチャレンジし続けていきます。病院と地域をつなぐ回復期としての機能を高め、慢性期として障害を持つ人々の長期療養を支え、移りゆく季節の中で生きる喜びを積み重ねていける医療・介護を提供していきます。

看護部にとってその基軸となるのが、スローガンである「患者によりやさしい看護・介護」の実現です。スタッフ一人ひとりが看護力・介護力を高め、ことあるごとにスローガンに立ち返り、チームそして患者さん・ご家族と語り合いながら、日々の営みを織りなしていける場所になりたいと考えています。今年はナイチンゲール生誕200年であり、『Nursing Now～看護の力で健康な社会を～』キャンペーンが世界的に展開されています。私自身が当院に赴任して最初に感じた「ナイチンゲールの世界がここにある」という思いをスタッフ、医療機関の皆様と共有できるよう取り組んでまいります。どうぞよろしくお願い致します。



大西看護部長

新年、明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になり厚く御礼申し上げます。昨年は、5月の皇位継承に伴って元号が令和と改まり、新たに即位した天皇陛下が即位を内外に宣言される即位礼正殿の儀が執り行われ、新しい時代の幕開けが実感された年でした。

また昨年はラグビーワールドカップが日本で開催され、日本代表が予選で強豪チームを次々と撃破し、8強入りして決勝トーナメントに進みました。しかし残念ながら優勝した南アフリカ代表に敗れましたが、目標に向かって「ONE TEAM」となり目標達成することの素晴らしさを改めて教わりました。病院も多職種の集団であり、患者さんの疾患治療や快適な療養環境提供の目標に向かい、職員それぞれが自分の役割を果たし、お互いを信頼し合い「ONE TEAM」となり目標達成して行くことは同様であると感じました。

本年はTOKYO2020オリンピック・パラリンピックが開催されますが、多くの感動・名場面生まれることと思いき楽しみにしています。さて、当院は本年も病棟は昨年と同様に障害者施設等一般病棟で運営しますので、回復に時間を要する患者さんにきめ細やかな治療、無理のないリハビリテーション等を行なえます。対象となる患者さんがおられましたらご紹介下さい。医療を取巻く環境が厳しくなっていく中、より一層の地域医療連携の推進が必要と感じております。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



高須賀事務部長



独立行政法人 国立病院機構
高松医療センター
〒761-0193
香川県高松市新田町乙8
TEL:087-841-2146 FAX:087-841-2178
URL:http://www.takamatsu-mc.jp/



発行責任者: 病院長 細川 等 編集責任者: 地域医療連携室